

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	コミュニケーション論	担当教員名	國澤 英雄
学年 開講時期	1 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	医療のあらゆる局面で最も大事なものはコミュニケーション能力である。本講座では様々な医療の現場で生起するコミュニケーション場面を取り上げ、医療従事者が患者・家族、他の医療従事者とのようにコミュニケーションすべきかの理論的に、かつ事例を示しながら解りやすく解説する。そして川越胃腸病院を取り上げ、コミュニケーションと心の交流について解説する。さらに本講座では、講義だけではなくグループ討議、レポート作成を適宜織り込み、より深い理解を得て、実際の医療現場で役立つ人材の育成を図る。		
到達目標	[1]ヘルス・コミュニケーションの全体像と関連要因を理解し、コミュニケーションに反映できる [2]医療者と患者・家族、医療者と医療者、患者と家族のコミュニケーションを理解し適切に対応できる [3]様々な場（面接、小集団、対立）のコミュニケーションの理論と方法を理解し、適切に対応できる [4]コミュニケーションの根底は、患者を思う心、信頼関係にあることを理解し患者満足の本質を知る		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ヘルス・コミュニケーション序論	コミュニケーションの定義、コミュニケーション・モデル、健康関連モデル	
第2回	医療のコミュニケーション関連要因	共感・支配・信頼・自己開示・確認・要約	
第3回	医療の人間関係のコミュニケーション	医療者と患者・家族の関係、医療者と医療者の関係、患者と家族の関係	
第4回	医療の場での非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションの重要性・特性・種類	
第5回	医療の場における面接	面接の定義、面接の形式、面接の段階、面接でのコミュニケーション	
第6回	医療における小集団コミュニケーション	小集団コミュニケーションの定義、医療集団の種類、小集団の構成要素、小集団の段階	
第7回	医療の場における対立とコミュニケーション	対立の定義・種類、対立解決へのコミュニケーション	
第8回	医療のコミュニケーション事例	川越胃腸病院を取り上げ、医療者と患者・医療者と医療者の心の交流とコミュニケーションを考察する	
テキスト・参考書	教科書：プリント配布 参考書：ヘルス・コミュニケーション これからの医療者の必須技術（ピーター・G・ノートハウス著、萩原明人訳、九州大学出版会）		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	講義に後で行うグループ討議・レポート（40％）、定期試験成績（60％）		
オフィスアワー	金曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	健康と運動	担当教員名	青崎 浩士
学年 開講時期	1 年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	体を動かすことは、人間にとって本能的欲求であり、心と体を快適・爽快にし、身体機能の維持向上や代謝、内分泌、自律神経などの恒常性ホメオスタシスを正常に保つために必要不可欠な機能維持方法である。超高齢社会にあっては、毎日無理なく、バランス良く正しい方法で運動を生活に取り入れることが重要であり、本科目ではスポーツ医・科学と健康についての基礎知識を学習するとともに、ラジオ体操やスポーツ等の実践を通じて、生涯に亘って健康の保持増進を図る方法を学ぶ。		
到達目標	1 スポーツ医・科学と健康について理解する。 2 ラジオ体操やスポーツの実践及びトレーニングのための基礎知識を習得し、健康の保持増進を図る。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ガイダンス	本講義の目的・意義及び授業展開について	
第2回	運動が生体に与える影響	運動のメリットおよびデメリット	
第3回	運動とエネルギー代謝	無酸素性および有酸素性エネルギー供給機構	
第4回	運動と運動器系	運動に伴う骨の増強や筋力の増強	
第5回	運動と呼吸・循環①	呼吸器系と酸素摂取量	
第6回	運動と呼吸・循環②	循環器系にかかる負荷と循環器系の適応	
第7回	運動とホルモン	運動により変化するホルモン	
第8回	運動の実践①	ラジオ体操の歴史と実践	
第9回	運動の実践②	ストレッチング	
第10回	運動の実践③	コアトレーニング	
第11回	外傷予防①	メディカルチェック	
第12回	外傷予防②	コンディショニングの方法と実際	
第13回	外傷予防③	アイシング	
第14回	運動の実践④	ロコモティブシンドローム	
第15回	運動の実践⑤	ラジオ体操・ストレッチ等	
テキスト・参考書	別途指示する。		
学修方法	講義を主体とし、実技演習については個別対応とする。		
評価方法	出席・授業態度50%、各講義ごとに提出してもらうレポート50%の総合評価による。		
オフィスアワー	授業後 15分間 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	生理学Ⅱ	担当教員名	太田 美智男
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	生理学Ⅰの総論講義から継続して、中枢神経系、末梢神経系、自律神経系について疾患を例にあげてそれぞれの機能を復習しながら具体的にイメージできるように講義する。さらに人体の各機能について総論の講義を発展、具体化して、それぞれの関連する臓器の働きを基に各種疾患の例を挙げて説明する。すなわち、血液の機能とその障害、循環系の機能とその障害による疾患、呼吸器の機能と障害、消化器の生理機能とその障害による疾患、尿路系の機能と障害、代謝系の概要とその障害による疾患、各種ホルモンの働きとその障害による疾患および生殖機能との関連、神経系ならびに複数の臓器の機能が関わる血圧の調節、血液の酸／塩基平衡の調節ならびに電解質バランス、生体防御機構などについて、国家試験問題などもとりあげて理解を深めるように講義する。		
到達目標	①神経系の働きとその障害による症状を説明できる。 ②各器官、臓器の働きとその障害による症状の病態生理を説明できる。 ③複数の臓器の機能およびホルモンが関わる生体の調節、例えば血圧、血液の酸塩基平衡、電解質バランスなどについて説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	中枢神経系の働きとその障害	体性神経の神経路の確認、脊髄の機能と障害、脊髄反射、脳幹の構造・主要機能と障害、大脳皮質の機能局在の確認とその障害	
第2回	末梢神経系の働きとその障害	脳神経のそれぞれの機能：眼球運動、味覚、聴覚・平衡覚、交感神経・副交感神経機能などと機能障害、体性神経系：感覚機能、運動機能と障害	
第3回	自律神経系の主要な機能とその障害	交感神経系の機能、副交感神経系の機能、関与する神経伝達物質、循環系および呼吸に対する自律神経の作用と障害による病態生理、排泄における神経系の機能と障害	
第4回	血液の機能と障害	血液細胞の機能と異常、血清成分の生理機能とその障害、血液浸透圧の維持、凝固系の働きと異常	
第5回	心機能とその異常	心臓の拍出機能と心不全、心筋の特徴と疾患、心臓の刺激伝導系とその異常・不整脈	
第6回	末梢血管の機能と物質交換	動脈の粥状硬化による閉塞・梗塞、微小循環、血管透過性、循環の調節物質	
第7回	肺の機能と障害	肺の拘束性障害および閉塞性障害、肺のガス交換、呼吸運動のリズム形成と調節、肺機能の低下、異常呼吸	
第8回	消化と吸収、嚥下・腸管の運動と障害	嚥下機能と障害、腸管の運動における自律神経の働きと障害、各栄養素の消化吸収	
第9回	消化吸収における肝臓、膵臓の機能	肝臓の代謝機能とその異常、胆汁の作用と分泌障害による病態、膵臓の代謝における作用と障害	
第10回	栄養と代謝	エネルギー代謝と調節・糖尿病、糖質・脂質の吸収と代謝、タンパク質の吸収とアミノ酸代謝、核酸の代謝・痛風	
第11回	腎臓の機能と障害	糸球体濾過機能と障害、尿管および集合管における再吸収と排出、慢性腎不全による機能障害、腎性高血圧、電解質の吸収と排泄	
第12回	血液の酸塩基平衡、血圧の調節	肺のガス交換と呼吸機能異常による血液pHへの影響、腎臓尿管における炭酸水素イオンの吸収・排出による血液pHの維持と変動 心・血管系への自律神経の作用による血圧調節、ホルモン・RAA系による血圧の液性調節の仕組み、降圧剤の作用	
第13回	ホメオスターシス、主要ホルモンの作用とその障害	視床下部ホルモン、下垂体前葉ホルモンの働きと調節、それぞれの分泌異常による病態、下垂体後葉ホルモンの作用と分泌異常症、副腎皮質及び髄質ホルモンの作用とそれらの障害、甲状腺ホルモンの作用と分泌異常症、副甲状腺ホルモンの作用	
第14回	エイコサノイドの作用、性ホルモンと生殖器系の働き	プロスタグランジン類の作用、COX阻害剤、プロラクチン、ゴナドトロピンの作用、性ホルモンの生理作用と性周期、性ホルモン分泌異常症の病態、妊娠による母体の変化	
第15回	生体防御機構	侵襲に対する生体反応、炎症、免疫反応の生理的意義と過剰反応による疾患の病態、炎症性サイトカインの作用	
テキスト・参考書	教科書：佐々木 誠一編集 生理学要点整理ノート改訂第2版 羊土社 参考書：下正宗他編集 コアテキストⅠ人体の構造と機能第2版 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		

オフィスアワー	月曜日 16:10～16:35 研究室、金曜日 16:10～16:35 研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	人間発達学	担当教員名	平岡 翠
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	胎生期から成人に至るまで、人間の成長は人間の進化の縮図とも言われる。人間の成長における発達段階を理解することは、原始的な生体反応から成長し完成された生体活動に至るまでの過程を学修することである。様々な疾患によってもたらされる障害の克服のために、人間の発達段階を理解し、それを利用して理学療法・作業療法を展開させる場面も多い。人間の発達を系統発生と個体発生の両面から検討する。人類の起源と進化の問題にふれ、人間の身体の形態的特徴と行動様式について調べる。次に、個体発生の視点から、ヒト新生児の特異性と人間の子どもの成長期の特徴に着目し、人間の発達特性とその意義について学修する。		
到達目標	①人間発達学の対象領域について説明できる。 ②各期の発達について説明できる。 ③神経系、内部機能、身体機能の発達について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	発達概念	人間発達期の区分、発達に関する定義、発達の原則	
第2回	発達理論	漸成的発達論と非漸成的発達論	
第3回	発達検査	目的と方法、標準化された発達検査	
第4回	姿勢反射と反応	原始反射の出現と消失(統合)	
第5回	運動発達（0～3か月）	背臥位、腹臥位、座位、立位	
第6回	運動発達（4～6か月）	背臥位、腹臥位、座位、立位	
第7回	運動発達（7～9か月）	四つ這い位、立ち上がり、しゃがみ、伝い歩き	
第8回	運動発達（10～12か月）（13～18か月）	立位から歩行の発達過程、幼児の粗大運動発達	
第9回	6歳までの発達（姿勢反射・反応）	粗大運動発達、歩行と走行、非対称的両側活動、平衡反応、ADL機能（手指・摂食・言語・社会性）の発達	
第10回	上肢機能の発達	物品の把握・保持、リーチ、手内操作、投球、目と手の協調性の発達	
第11回	ADLの発達	遊び、食事、排泄、更衣	
第12回	感覚・知覚・認知・社会性の発達	体性感覚・化学感覚等の発達と感覚統合、模倣、知的活動、共同注意と言語発達の関係	
第13回	学童期、青年期の発達	自己概念、第二性徴、自我同一性の獲得	
第14回	成人期の発達	心身の健康、ストレス	
第15回	老年期における発達	身体機能の変化、喪失体験	
テキスト・参考書	教科書：上杉雅之監修 イラストでわかる人間発達学 医歯薬出版 2015 参考書：森岡周 発達を学ぶ 協同医書出版 2015		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	感染防御と安全管理	担当教員名	太田 美智男
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	コロナウイルス感染など、さまざまな微生物による感染症は依然として人類の脅威であり、特に高齢者や重症基礎疾患を持つ患者にとっては死亡原因となることもある。また現代の高度先進医療では手術や薬物治療など患者に侵襲性の高い治療を行うこともあり、それらの患者は易感染状態で感染症の危険にさらされる。したがって本講義では医療従事者に必要な微生物学及び感染症について講義するとともに、微生物学の知識を踏まえた適切な感染予防方法とその意義を講義する。また人が本来持つ感染防御機構である自然免疫（非特異的感染防御能）および獲得免疫（特異的感染防御機構）についてその概略を説明する。 さらに本講義では近年医療の現場で重要視されるようになった医療事故防止のための医療安全の取り組みについての基本的考え方を説明し、リハビリテーションにおける運動負荷を伴う訓練のための安全管理ガイドラインと、実際に問題となる個々の患者の症状・病態について安全管理に基づいて講義する。さらに医療の現場で起こった主な医療事故の事例を提示し説明する。		
到達目標	① ④に感染を起こす主要なウイルス、細菌、真菌などについて、知識を持つ。 ② 肺炎、尿路感染症、腸炎、敗血症、皮膚感染などについて、感染の成立過程とそれに対する人の反応の概略を知る。 ③ 感染症に対する人の非特異的感染防御機構である自然免疫および特異的感染防御機構である獲得免疫について理解する。 ④ 感染経路別感染予防策および消毒・滅菌、清潔操作について十分な知識を持つ。 ⑤ 医療安全の取り組みについて基本的考え方を理解し、起こりやすい医療事故について十分な知識を身につける。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	感染を起こす主要微生物	ウイルス、細菌、真菌、原虫、細菌毒素、感染症治療薬	
第2回	感染経路別感染症の病態生理	肺炎、尿路感染症、腸炎、敗血症、皮膚感染などについて、それぞれの感染症の成立の概略と症状、炎症反応（局所反応及び全身反応）	
第3回	自然免疫と獲得免疫	自然免疫と呼ばれる非特異的感染防御機構として、好中球、喀痰の排出など感染防御に関わる各種の生理機能。獲得免疫のメカニズムと感染予防、ワクチン	
第4回	標準予防策と感染経路別予防策	標準予防策の方法、接触感染予防策、飛沫感染予防策、空気感染予防策	
第5回	消毒・滅菌、清潔操作	物理的消毒・滅菌法、化学的消毒・滅菌法、手洗い、手指・皮膚消毒法、医療機器消毒、環境消毒	
第6回	医療安全管理	医療安全の考え方、ヒューマンエラー、医療安全教育、リスクマネージメント、ヒヤリハット・インシデントと報告。本人確認、チューブ管理、施設安全管理。職業感染予防、感染性廃棄物処理	
第7回	運動負荷を伴う訓練のための安全管理	リハビリテーション医療における安全管理ガイドライン、バイタルサイン、疼痛などに対する対応、心肺機能、運動機能、めまい、精神・神経機能などと訓練	
第8回	医療の現場で見られる医療事故	主な医療事故：院内感染、転倒、誤投薬、手術ミス、患者取り違い、その他。医療訴訟	
テキスト・参考書	教科書：坂本史衣著 基礎から学ぶ医療関連感染対策改訂第3版 南江堂 公益社団法人日本リハビリテーション医学会 リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン第2版 参考書：医療情報科学研究所編 病気がみえるVol. 6免疫・膠原病・感染症第2版 メディックメディア		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	月曜日 16:10～16:35 研究室、金曜日 16:10～16:35 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	一般臨床医学	担当教員名	河田 美紀
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	臨床医学的観点から、疾病学、病理学の基礎を学び、病気の原因、経過及び結果、病態と機能の変化を理解する。これにより、臨床における疾病学の基本的概念を知り、病気の予防、診断と画像評価、早期治療、リハビリテーションによる後遺症の治療や再発防止を中心とした臨床医学についての基礎を養い、他で開講される様々な症候学を学ぶ上で必要な基礎的な臨床医学知識を習得する。また、臨床において容体が急変する対象者の対応、大規模災害が多発する社会情勢に対応できるよう、救急医学についてもその基礎を学ぶ。		
到達目標	①臨床医学一般の診察、検査、診断から治療への流れを理解する。 ②主要疾患の病因・病態に関する知識を習得する。 ③リハビリテーション学との関連性について理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	救急医学	ショック、心肺蘇生法、呼吸管理、輸血、救急処置の概要を理解する。ICUの役割を理解する。	
第2回	外科総論	機械的損傷と非機械的損傷、腫瘍の症状と治療、臓器移植を理解する。	
第3回	脳神経外科総論	症候と病態、補助診断法、主の脳疾患の概要について理解する。	
第4回	皮膚疾患	皮疹の特徴と皮膚疾患の原因と症状、皮膚感染症などの病態と治療を理解する。	
第5回	婦人科・産科疾患	性機能の生理、不妊、女性器の腫瘍、正常の妊娠と分娩、不妊について理解する。	
第6回	眼疾患・耳鼻咽喉科疾患	眼疾患の病態と検査を理解する。耳・鼻・咽頭・喉頭疾患の症状と病態生理、検査について理解する。	
第7回	消化器疾患①	食道癌・胃潰瘍・胃癌などの病態と治療を理解する。	
第8回	消化器疾患②	炎症性腸疾患、腸閉塞、大腸癌などの病態と治療を理解する。	
第9回	肝・胆・膵疾患①	ウイルス性肝炎、肝硬変、肝癌の病態と治療を理解する。	
第10回	肝・胆・膵疾患②	胆石、急性膵炎、膵臓癌の病態と治療を理解する。	
第11回	血液・造血器疾患	貧血をきたす疾患・白血病・出血性疾患の病態と治療を理解する。	
第12回	代謝性疾患	糖尿病・脂質異常症・痛風・ビタミン欠乏症などの病態と治療を理解する。	
第13回	内分泌疾患	下垂体・甲状腺・副腎疾患の病態と治療を理解する。	
第14回	腎・泌尿器疾患	腎と尿路の代表的疾患の病態と診断、検査法、治療について理解する。	
第15回	膠原病・アレルギー・感染症疾患	関節リウマチ・SLE、免疫不全など病態と治療を理解する。	
テキスト・参考書	教科書：第1回～第6回：椿原彰夫、平岡崇編著 PT・OT・STのための一般臨床医学第3版 医歯薬出版株式会社 第7回～第15回：前田眞治他著 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野内科学第4版 医学書院 参考書：千代豪昭、黒田研二編集 学生のための医療概論第3版 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	定期試験成績（100％）		
オフィスアワー	月・水・金 12時10分～17時 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		